

——1と10のカタカナの部分に漢字に直しなさい。
また、——11と15の読み方をひらがなで答えなさい。
つづけ字ではなく、一点一画をていねいに書くこと。

- 1 ヤツキヨクで痛み止めを買う。
- 2 農業がサカんな地域。
- 3 チョウフクする表現は避ける。
- 4 たくさんのザイホウを積みこんだ船。
- 5 決勝戦でヤブれる。
- 6 アンカな品物を仕入れる。
- 7 お会いできてコウエイです。
- 8 レキシに残る事件。
- 9 一年もナカバを過ぎた。
- 10 食後にリョクチャを飲む。
- 11 際限なく続く山道。
- 12 砂糖にアリが群がる。
- 13 平和を希求する。
- 14 たくさんの遊具がある公園。
- 15 答えがわかったので、挙手する。

「いやいや、おまじないをやってみるよ」
ひいおばあちゃんは正座し、目を閉じて両手を合わせ、つぶやく。

「3 清水の音羽の滝は尽きるとも、失せたるハサミの出でぬことなし」

一呼吸置くと、いつもは塞がりがちの目をカツと見開いて、周囲をくまなく見回す。おもむろに散らかった座卓の上に視線を定めると、本や新聞紙やチラシやリモコンやペンやメガネをよけていく。と、そこから糸切りばさみがひよつこり現れる。

「わー、あつたよ、すごい！」

芽依が声を上げた。友梨はもう、ひいおばあちゃんのおまじないには驚かなかつたが、やつぱり不思議に思う。

「さつきもここをさがしたんだけどね。隠すなんて、本当に意地が悪いよ」

「誰かがハサミを隠したんですか？」

「うん、気をつけないと、小鬼どもは人を困らせるのが大好きだからね」

芽依はキョロキョロと辺りを見回す。

「ひいおばあちゃん、そのおまじないの清水って、京都の清水寺のこと？」

「そうだよ。清水さんの名前に、いたずら者は恐れをなして逃げ出すんじゃないかね」

ひいおばあちゃんはあらためて座り直し、糸切りばさみを使う。「友ちゃんたち、ありがとうね。台所に大福があるから、二階へ行くなら持つて行くといいよ」

「うん、そうする」

言われたとおりにし、おやつを手二階の部屋へとふたりで階段を上がった。

「なんだか不思議なひいおばあさんだね。それにここも、別の世

二次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

吉住友梨と立花芽依は、中学の時は仲が良かったが、友梨の秘密を芽依が周囲にもらしてしまったために、あまり話さなくなっていた。その後二人は、同じ高校に進学する。芽依は同じ部活の丸山を好きになり、手づくりのプレゼントをしたいと思うようになった。友梨は、芽依のプレゼントづくりを手伝うことにする。以下の場面の前日、丸山の噂話に反論した芽依は、丸山から「口が軽い」と言われた。ショックを受けた芽依は、手芸の本を橋から投げ捨ててしまう。その後、芽依が友梨の家に行きたいと言ったので、二人は友梨の家へ向かう。

家にいたのは、ひいおばあちゃんだけだった。そのひいおばあちゃんが、畳の上に這いつくばっているものだから、²非常事態かと友梨はあわてて駆け寄った。

「しっかりして、ひいおばあちゃん！ どうしたの？ 気分悪いの？」

のんびりと体を起こしたひいおばあちゃんは、「おや、おかえり」と悠長に（「ゆつたりとしてあわてずに」）言う。

「ちよつともう、倒れてるのかと思ったじゃない」

「いやね、さがし物をしてたんだよ」

そうして、芽依のほうを見た。

「友達かい？」

「あ……、こんにちは、立花芽依です」

「ひいおばあちゃん、いったい何をさがしてたの？」

「糸切りばさみが見当たらなくてね。また小鬼が来たんだろうねえ」

「えー、危ないからわたしがさがすよ」

わたしも、と芽依も座り込む。

界へ来たみたい」

窓の外に広々とした田畑が広がる風景を見て、芽依ははしゃいだように言う。

「別世界かもね。小鬼がいるみたいだし」

「小鬼かあ。いても不思議じゃないかも。大きな家だもん」

「このへんじやふつうだよ」

「座敷童（「古い家に住む子どもの姿の家神」）はいないの？」

「いないと思うよ」

「ふうん、それにしても、おもしろい呪文だね。ハサミが見つかるのは、清水さんの神通力以上に確実、みたいなこと？」

「たぶん、そう断言しちゃうことで、言葉通りになるって信じられてるのかなあ。言葉通ってやつ？」

前に瑛人（「友梨の幼なじみ」）が言っていたことを思い出しながら、友梨は言う。

「ああ、言葉に魔力があるってやつね。あれだね、必殺技とか、技の名前言いながらヒーローが敵を倒すつてのが、お約束だもんね」

「えっ、あれも言葉なの？」

「まあ、似たようなもんでしょ。おもしろいな。呪文が伝わってるのは、わりとみんな信じてるってことだしね」

「考えてみれば、受験も恋愛も、いざとなったら神頼みだもんね。たまにちゃんと信じてみたら、うまくいくってこともあるかもね」もししゃやの呪文（「絡まった糸をほぐすおまじない」）も、言葉に目的を委ねて無心になれるから効くのでは、と瑛人が言っていた。信じるということは、相手に委ねることだから、自分を引っ込めて、先入観を引っ込めることを、呪文は教えてくれているのかもしれない。

「外が広々してるよね。このへん、友梨の家の土地？」

芽依はもう、ふだん通りに明るく振る舞っていた。ひいおばあ

ちゃんの説文で気が紛れたのだろうか。

「うん、うちの畑」

「温室もあるじゃん」

「うちのお父さん、農業をはじめたんだ。だからひいおばあちゃんの家へ引越したの」

4 芽依は上目遣いに友梨を見て、肩をすくめる。

「いいの？ 誰かに言っちゃうかもよ」

「そしたら、芽依が丸山のこと好きだって言いふらしちゃうかも」
ふたりしてくすくす笑うと、なんだかも、何でも芽依に話してしまいたくなった。

「ねえ、この編みぐるみどう思う？ オタマジャクシなんだけど、みんな気持ち悪いって言うの」

編みかけのオタマジャクシを取り出し、畳の上に置く。皮を剥いだような状態なので、ますます気持ち悪いかもしれない。

「何これ！ オタマジャクシ？ 足生えてるよー。でもすごい、どうやって編むの？ めっちゃ器用だよ」

工夫して立体感を出している。芽依はそういうところに気づいてくれる。オタマジャクシなんて変だと思っていなくても、いいところも見つけようとする。

「これ見て、わたしらしいって言ってくれた人がいるんだ」

「らしい、か。友梨のことよく知ろうとしてくれる人なんだね」

よく知ってる人、じゃなくて、よく知ろうとしてくれる人。そのほうがずっとうれしく感じる。瑛人がそうだったら、考えるだけでワクワクする。

「芽依も、周りのことよく知ろうとするよね」

5 だから友梨は、彼女がちょっとおしゃべりだと知っていても、つい自分のことを話したくなるのだろう。

〈中略〉

「実を言うと、丸山に、友梨のお父さんが主夫だって話しちゃっ

た」

やはり。それで丸山は、友梨にお弁当のことで突っ込んできたのだ。

「丸山は、自分が料理好きなことを恥ずかしがってたから？ うちのお父さんみたいな人もいて教えてあげたかったの？」

申し訳なさそうに、芽依は頷く。

「友梨が、自分でつくってるって言ってるのは知らなかったの。丸山にとつて、お父さんがつくる料理は興味があると思ったから、つい」

友梨が、お弁当をお父さんの手作りだと言えなかったのは、丸山が料理好きを言い出せなかったのと同じような感覚だろう。周囲とは違うから、それだけだ。お弁当だけでなく、オタマジャクシの編みぐるみにも引け目を感じてしまっている。

「彼ね、わたしのお弁当見てつくrikataを訊いてきたの。それで、本当に料理できるのかって、痛いところ突かれたよ。やっぱ、本当のこと知ってたんだ」

友梨はおかしくて笑ってしまう。

「それにしても、芽依は丸山が自分でお弁当をつくってるって、どうして知ったの？」

芽依は深くため息をつく。

6 「丸山のお母さんと、うちのお母さんが仲良しなんだ。ママさんバレー仲間。それでいろいろ聞いているんだけど、丸山のおばあさんが入院して、お母さんは、看病や実家のお店の手伝いに行ってるみたい」

「それでお母さんが家にいなくて、家出したとかあの子たちが噂してたのね」

「ほんと、好き勝手なことやってたよ」

憤慨して（＝ひどく腹を立てて）、芽依は腕組みする。

「だけど、それ以前から彼はお弁当をつくってたんだよね」

「うん、丸山のお母さんは料理が苦手なのに、なぜか息子が料理好きなんだって言ってたらしいの」

「じゃ、噂みたいな、何でもできるお母さんじゃないってこと？」

「丸山の料理が上手すぎて、しかも彼は自分が料理好きってことが恥ずかしいみたいで周囲に黙ってるから、完璧なお母さん像が噂で一人歩きしたらしいよ」

そうして丸山のお母さんは、裁縫も得意ではないようだ。芽依もとつくに知っているのだろう。

「手芸の本、お弁当袋をつくりたかったんだよね」

それには芽依は、うなだれた。

「もう、いいんだ」

丸山の料理への熱意を知っていて、そうやってつくったお弁当をいつもきれいに食べて、ときどき友達に分けては感嘆の声に目を細めて、お弁当箱を丁寧に洗っているのも知っていて、芽依は、それを包むお弁当袋をつくりたかったのだろう。彼のお弁当にふさわしい、お弁当袋を。

「よくないよ」

丸山の手作りお弁当はステキだ。芽依はそのことを、誰よりも知っているのだから、丸山にも気づいてほしい。

誰かが自分を、よく知ろうとしてくれているということ。

*

「見つけれっこないよ」

川原へ下りていく友梨の後を追いながらも、芽依は不服そう。

「だから、もし見つかったら、つくるのよ。お弁当袋」

昨日、芽依が捨てた手芸の本をさがして、友梨は草むらを覗き込み、ススキの穂をかき分ける。橋の上から投げたのだから、このあたりにあるはずなのだ。

「つくったって、もう渡せないよ」

「そんなのわかんないでしょ」

「作りたくなったら、また本を買うよ。何も捨てたのを拾わなかったって」

「ここで見つけることに意味があるの。本が出てきたら、つくれて言われているようなものじゃない」

「誰に？」

「……神さま？ っていうか、そういう巡り合わせだってこと。

そうだ、あのおまじない」

友梨は、ひいおばあちゃんがなくし物をさがすときに唱えていたおまじないを思い出す。

「ええと、清水の音羽の滝は尽きるとも、失せたる本の出でぬことなし」

そしてまたさがす。ため息をつきつつも、芽依も草をかき分け

「おーい！ そこでも何やってるんだよ」

土手の上から声がした。顔を上げると、丸山がこちらに下りてこうとしている。

8 立花、昨日も部活サボっただろ。無断欠席すんなよ」

芽依は戸惑っているが、丸山は心配して来たのではないだろう

か。

「ちようどよかった、丸山も手伝ってよ」

「えっ、ちよつと、友梨」

「手伝って、何を？」

「芽依が落とした本をさがしてるの。手芸の本」

「は？ 手芸？」

言いつつも、草むらへ入ってきた丸山は、手伝う気らしく周囲を見回した。

「このへんに落としたのか？」

「その橋の上から落ちたんだ」

「じゃ、そのへんは見えた？」

「うん、もうさがしたけど、見落としてるかも」

よし、と彼は気合いを入れると、草をかき分けながら何やらつぶやきはじめた。

「清水の音羽の滝は尽きるとも」

「そのおまじない、知ってるの？」

芽依が驚いて問う。

「ばあちゃんがよく言ってた」

「入院してるおばあさん？」

「ああ」

「そっか。なんか、見つきりそうな気がしてきた」

自分に言い聞かせるように頷いて、芽依も同じおまじないをつぶやく。そんな彼女をじっと見ていた丸山は、苦しそうに顔をゆがめた。

「ごめん」

急に丸山は、芽依に向かって頭を下げる。

「立花は、わかってくれてるのに、味方してくれたのに、ひどいこと言った」

芽依はあわてて【Ⅰ】を振った。

「ううん、わたしがつい、余計なこと言っちゃったから」

「気持ち、わかる。わたしもお弁当のことうそついてるから」

友梨がからりと付け加えると、こちらを見て丸山は苦笑いする。

「でも芽依は、いつでも本当のことを、そのまま受け止めてくれるんだよね」

だから友梨は、芽依が落とした本を見つけたい。

「イメージって何だろうな。おれのイメージ？ 崩れたらいけないのかな。ずっと考えてたんだ」

もし誰にもわかってもらえなかったら、そう思うと怖いから、崩さないようにしているけれど。

「そうだよ、わたしも、お父さんのイメージを崩したくなかつ

12

糸は絡まるのが自然だという。人と人ともそうなのだろうか。

絡まった糸も、ゆったりした気持ちでほぐしていけば、きつとほどける。あせて結び目が固まったり、【B】力ずくで引つ張ると切れてしまうかもしれないけれど、おまじないがあるから大丈夫だ。

しやしやもしややく（Ⅱ絡まった糸をほぐすおまじない）

芽依との糸は切れなかった。友梨はまた、彼女と過ごす時間を編んでいけるだろう。

オタマジヤクシの短い尻尾ができあがった。カエルになるとなる尻尾は、トカゲみたいに切れてしまうのではなくて、だんだん短くなって、【C】なくなる。ほどこいた毛糸を足に編み直すかのように、尻尾の中身が足につくり直されるのだろうか。

夢中になって編んでいると、毛糸玉が座卓から転がり落ちた。そのまま畳の上を転がっていく。友梨がのぼした手を逃れて、廊下へ、どんどん転がっていく。縁側（Ⅱ部屋の外側に設けた板敷き）から外へ飛び出してしまいそうな勢いに、友梨はあわてて立ち上がりとする。

「シッ！」

掃除をしていたひいおばあちゃんが、毛糸玉をにらんでつぶやくと、転がる玉がちょうど柱にぶつかって止まった。

ひいおばあちゃんは、縁側から外へほうきで何かを掃き出す。

【D】ゴミとかほこりだ。でも、友梨はほうきで追い出される小鬼を想像する。

毛糸玉の周囲を掃き終えると、ひいおばあちゃんはガラス戸をぴしやりと閉めた。

それでもう、ヤツらに編み物のじやまはできないだろう。友梨

たけど、お父さんは、わたしや家族のために料理して、野菜を育てる。ほかの子に何か言われたって、どうでもいいことなのに」

「おれ、吉住のお父さんのこと、知ってたんだ。なんか、

9この前は突っかかるみたいなの言い方になってしまったけど」

「じゃあうちへ来ればいいよ。芽依といっしょにおいでよ。お父さん、野菜やその料理の話なら喜んで思うし」

丸山は、気恥ずかしそうに、でもうれしそうに微笑んだ。友梨はそのとき、彼の足元に白いものを見つけ、【Ⅱ】を上げた。

「あつ、丸山、なんか踏んでる」

あわてて彼は足を上げる。落ちていたものを拾い上げ、汚れを払いながらまじまじと見る。

「これ……」

手芸の本だ。芽依が落としたものに間違いない。

「簡単ランチバッグ？ 手芸って、弁当袋の本かよ？」

そう言った丸山の手から、芽依はあわててひったくるように奪う。

「隠さなくてもいいじゃん。立花が手芸好きだからって、似合わないとは思わないし」

「手芸好きっていうか、ちよつとつくってみたくなっただけだよ！

10だって、ボロボロのを見てたらさ、せつかくおいしいお弁当を入れるのにつて思えて」

ふうん、と言った丸山は、わかっているのかいないのか。

【A】丸山のも、つくってあげたら？ ね、芽依」

友梨が【Ⅲ】をはさむ。丸山は意外そうにまばたきし、それから 11 短い髪をくしゃくしゃと掻いた。

「じゃ、たのむ」

「……うん」

ふたりして、頬を赤くしていた。

13

は。心置きなく集中できる。文化祭のバザーには、かわいいウサギといっしょにオタマジヤクシを紛れ込ませてやる、と想像し、

ちよつと楽しくなりながら友梨は編む。

13 お父さんが畑から戻ってくる。大きなカボチャを手に、台所から友梨に声をかける。

「これ、グラタンにするか？」

大好物だからうれしいけれど、友梨はつい、素っ気ないそぶりで頷く。

「たくさんつくっておいてよ。お弁当に入れる分も」

生意気な口ぶりだと自分でも思う。でも、お弁当でも食べたい、というニュアンス（Ⅱ言葉に表さなくても感じ取れる考え）をお父さんは感じ取ってくれたらしく、「おう」と上機嫌だ。

14 お父さんがつくったと、みんなに言えそうな気がする。カボチャのグラタンを、多めにタッパに入れていって、お弁当仲間に分けてあげよう。こんなにおいしいものをつくる人が、自分の7 お父さんのだと、友梨は胸を張れるはずだ。誰にもイマイチとか言わせない。

家にいて、料理や掃除をこまめにして、野菜を育てて、おいしいお弁当をつくってくれるのが、友梨のお父さんだ。

いつの間にか、友梨の周りから、厄介者の小鬼は消えていた。

（谷瑞恵『神さまのいうとおり』幻冬舎より）

問1 — 1 「ひいおばあちゃん」の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 現実には存在しないものが見えるので、その不思議な力を高めたいと思っている。
イ 昔から語り継がれ、暮らしに根づいているものを大切に、取り入れている。
ウ 京都にある清水寺を熱心に信仰し、その力を借りれば何でも解決できると思っている。
エ おまじないの力を目の前で見せて、いろいろな人に使ってもらい広めてほしいと願っている。

問2 — 2 「非常事態か」とありますが、友梨は何が起きたと思ったのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ひいおばあちゃんがおまじないの言葉を思い出せなくて、ショックを受けているのではないかと思った。
イ ひいおばあちゃんが小鬼に縫い物のじゃまをされて、困りはてているのではないかと思った。
ウ ひいおばあちゃんが糸切りばさみを落として、まちがえて踏んでしまったのではないかと思った。
エ ひいおばあちゃんが具合を悪くして、家の中で倒れたのではないかと思った。

問3

① — 3 「清水の音羽の滝は尽きるとも」とありますが、この言葉から始まるおまじないは、どのような時に使うのですか。十五字以内で答えなさい。

② 次の文章は、おまじないについてまとめたものです。□
1・3にあてはまる言葉を、1・2はそれぞれ二字で、3は三字で本文からぬきだしなさい。ただし、1・2は別の言葉が入ります。

昔の日本人は、言葉に□1があるので、言葉を発するとその内容が現実になると信じ、それを□2と呼んでいた。おまじないもその力を借りようとしたものだと考えられる。

おまじないを唱えることで言葉に目的を委ね、□3を捨てて無心になれるので、おまじないが効くのではないかと友梨や瑛人は考えている。

問4

— a・dの本文における意味として、最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(c・dは7ページにあります。)

- a 「くまなく」
ア すみからすみまで
イ すばやく確認して
ウ 何度もくり返し
エ じつと集中して

b 「お約束」

- ア 大切にすべき伝統
イ そうしたいという期待
ウ 皆に守ってほしい規則
エ 皆が思い浮かべる展開

c 「心置きなく」

- ア 後悔することなく
イ 気にすることなく
ウ 疲れることなく
エ 無理することなく

d 「素っ気ない」

- ア 気に食わない
イ 心にもない
ウ 愛想のない
エ つまらない

問5

— 4 「芽依は上目遣いに友梨を見て、肩をすくめる」とありますが、この時の芽依の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 友梨の家が農家だとは思わなかったから、意外でびっくりした。
イ 友梨がひいおばあちゃんの家へ引っ越したなんて、信じられない。
ウ 友梨の家のことをおしゃべりな自分が聞いてしまっても、だいじょうぶかな。
エ 友梨はお父さんのことについて明るく振る舞っているみたいだけど、本当かな。

問6

— 5 「つい自分のことを話したくなる」とありますが、友梨がそう思うのは、芽依がどのような人だからですか。二十五字以上三十五字以内で答えなさい。

問7

— 6 「丸山のお母さん」はどのような人ですか。その説明として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 友梨のお母さんと仲が良い。
イ 料理も裁縫も苦手。
ウ 家事はすべて得意。
エ 料理に自信があると言いつらしている。
オ お店を経営している。
カ おばあさんの看病をしている。

問 8 — 7 「もし見つかったら、つくるのよ」という言葉には、芽依に対する友梨のどのような思いがこめられていますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 丸山との縁を結べるように本を見つけ、あきらめずに思いを伝えてほしい。

イ 無理だと思っても、努力して見つけ出すことの達成感を味わってほしい。

ウ 神さまの力を借りて本を見つけ、丸山の誤解を解いてほしい。

エ 本を見つける作業と一緒にすることで、協力することの大切さを思い出してほしい。

問 9 — 8 「立花、昨日も部活サボっただろ。無断欠席すんなよ」とありますが、丸山は芽依に本当はどのようなことを言いに来たのですか。その具体的な内容が最もよく書かれている一文を本文から探し、はじめの六字で答えなさい。

問 10 【Ⅰ】ⅠⅢに入る言葉として適当なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。（同じ記号は一度しか使えません。）

ア 首 イ 耳 ウ 口 エ 鼻

オ 声 カ 足 キ 音

問 11 — 9 「この前は突っかかるみたいない方になってしまった」とありますが、丸山は友梨に何を言ったのですか。4ページ上段〈中略〉以降の友梨のセリフの中から探し、十字でぬきだしなさい。

問 12 — 10 「だって、ボロボロを見てたらさ、せっかくおいしいお弁当を入れるのにつて思えて」とありますが、

① 何が「ボロボロ」なのですか。六字以内で答えなさい。

② — 10のように芽依が思ったのは、丸山のどのような行動を知っていたからですか。最もよく説明されている形式段落を本文から探し、最初の六字で答えなさい。

問 13 □ AⅡDに次の言葉をあてはめ、記号で答えなさい。（同じ記号は一度しか使えません。）

ア つい イ ついでに ウ たぶん エ やがて

問 14 — 11 「短い髪をくしゃくしゃと掻いた」とありますが、この時の丸山の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 驚いているし、照れてもいる。

イ 緊張し、落ち着かなくなっている。

ウ ショックを受け、どうしたらいいかわからない。

エ 面白がつて、格好をつけている。

問 15 — 12 「糸は絡まるのが自然だという。人と人ともそうなのだろうか」とありますが、「人と人」が「絡まる」とはどういうことですか。五字以上十字以内で具体的に答えなさい。

問 16 — 13 「お父さんが畑から戻ってくる」とありますが、この時のお父さんの気持ちとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大きなカボチャがつくれたので、これからも娘と一緒に農業を続けていきたい。

イ おいしそうなカボチャがとれたので、娘と一緒に料理をつくろう。

ウ つくったカボチャがいい出来だから、家族だけでなく娘の友達にも食べてほしい。

エ いいカボチャがとれたので、娘の好きなものをつくって喜ばせたい。

問 17 — 14 「お父さんがつくったと、みんなに言えそうな気がする」とありますが、この時の友梨の気持ちとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 父の後を継ごうという気持ち。

イ 父をいたわろうと思う気持ち。

ウ 父を自慢に思う気持ち。

エ 父から離れようという気持ち。

問 18 友梨と丸山が共通して悩んでいたのは、どのようなことですか。三十五字以上四十五字以内で答えなさい。

6		1	
	ア ン カ		ヤ ッ キ ヨ ク
7		2	
	コ ウ エ イ	ん	サ カ ん
8		3	
	レ キ シ		チ ョ ウ フ ク
9		4	
ば	ナ カ ば		ザ イ ホ ウ
10		5	
	リ ヨ ク チャ	れる	ヤ ブ れる

11		際 限
12		群 がる
がる		
13		希 求
14		遊 具
15		挙 手

問 二
1

問 2

問 3
①

②

1

2

3

問 4
a

b

c

d

問 5

問 6

問 7

問 8

問 9

問 10
I

II

III

問 11

問 12
①

②

問 13
A

B

C

D

問 14

問 15

問 16

問 17

問 18

受 験 番 号